

214H29

315

28

理學博士 佐々木忠次郎先生序

深井武司著

昆蟲學講義第一

昆蟲學小史

全

315-28

緒言

源井武司 寄贈本



明治三十八年ノ秋、予病ヲ以テ病院生活ヲナス三閱月、此間枕頭ノ雜書ヲ亂抽シテ昆蟲學小史一編ヲ草シ、之レヲ松村理學博士ニ致シテ朱筆ヲ請ヒ今ニ藏ス、頃日學友兩三ト會シテ談此事ニ及ブ、諸氏コレヲ公ニセンコトヲ薦ムル切矣、予ソノ雜駁不文、到底識者ノ一粲ニダモ値セザルヲ云フ、而モ許サレズ、仍テ紀念ノ意味ニ於テ多少ノ訂正ヲ施シコレヲ諸兄ノ膝下ニ呈セントス、希ハコノ心ヲ憐ミ充分ノ叱正アラントコトヲ

斯著モト昆蟲(分類)學ノ歴史ヲ論スルト雖モ、又時ニ餘事ニ涉ルコトナキニアラズ、而シテ敢テ嚴密ナル史論ニ及ハズ、大體ニ於テキールとC. L. Marshallノ論旨ニ倣ヘリ、コレ最モ近キ日ノ研究ナレバナリ、而シテ

Burneister. H. Handbuch der Entomologie. vol. I. (Shuekari英譯—A manual of Entomology)

Kirby and Spence. An Introduction to Entomology, vol. IV. 1828

Wershood. J. O. An Introduction to the modern classification of

Insects. 1839—40,

等ノ著述ハ昆蟲學ノ歴史ヲ知ル上ニニ極メテ有益ナルモノナレバ一讀得ル處千金ニ止マラズ、

文中術語ヲ洋字ノマ、記セルハ適當ノ譯語ナキカ、又ハ意味ヲ不明ナラシムルヲ恐レテナリ、殊ニ同語カ時代ニヨリ學者ニヨリ意味ヲ異ニセルハ味フベキ事ナリ、

此著卷頭ニ各國昆蟲學大家ノ小照ヲ掲ゲントセシモ、微力未ダ充分ニコレヲ果ス能ハズ、追テ後日ヲ期ス、

予今ヤコレヲ公ニセントスルニ當リ本邦昆蟲學ノ現況ヲ顧ミ、佐々木、松村ノ兩教授、並ニ名和氏等ノ盡サレタル事蹟ヲ思ヒ予ガ此小著モ亦之等三先生竝ニ學兄諸君ノ學恩ニ負フ處少ナカラザルヲ謹ンテ謝セザルヲ得ズ

明治四十二年蟻螂生スルノ節

著 者 識

知人深井武司君昆蟲學ヲ修メラル、ヤ茲ニ年アリ、此間君ガ調査セラレタルモノ頗ル多シ、今ヤ君之ヲ綴リテ梓ニ上ボシ昆蟲學小史ト命セラレタリ、若シ之ヲ緡カバ昆蟲學ノ來歴ヲ瞭カニシ、且同學ノ世ニ裨益アル所以ヲ窺フニ足ル、一言ヲ書シテ卷首ニ添ス。

明治四十二年六月

理學博士 佐々木忠次郎

有羽之蟲三百六十而鳳凰爲之長、

有毛之蟲三百六十而麒麟爲之長、

有甲之蟲三百六十而神龜爲之長、

有鱗之蟲三百六十而蛟鱗爲之長、

有倮之蟲三百六十而聖人爲之長、

一切の男子は是我父也

一切の女人は我母也

我生を受けざる處なし

故に大道の生類は皆之

我父母たるなり

大戴禮記

梵網經

*So all the animal Creation is of a pie
Part and parcel of one grand Devine plan,
Some philosophers and theologians even ascribe
immortality to the animals and believed that
in the here after the shall hear the song
of the mosquito, the hum of the bee,
and the shrill rolling drum beat of the
Cicada.-----A. S. Packard.*

昆蟲學小史

深井武司著

昆蟲學小史

昆蟲類ノ學術的研究ハ希臘ノアリストテレス(Aristoteles 384-322 B.C.)ヲ以テ嚆矢トナス、彼ガ生涯ハ頗ル多方面ナリシニモ係ハラズ、「動物之歴史」(Historia animalium)ナル一著ヲ公ニシタルハ後進ノ好案内タルノミナラス、ソノ精細緻密ナル觀察研究ハ殆ト空前絶後ニシテ當年ノ動物思想ニ一大光明ヲ與ヘタルヤ必セリ。

「動物之歴史」ハ總テ拾卷ヨリ成ル、其第壹卷第六章ニ於テ全動物界ヲ有血動物及ビ無血動物ニ別チ更ニ前者ヲ五類ニ後者ヲ四類ニ分類セリ、而シテ昆蟲類ハ實ニ後者ノ一類ナリキ、第四卷第壹章ニ於テ「昆蟲類ノ屬スル第四類ハ種々ノ異形ヲ含ム、昆蟲類(Entomon, Insects)トハ名詮自稱、牀ノ上部又ハ下部或ハ兩部トモ切割アル動物ニシテ分明ナル肉及ビ骨ヲ有セザレドモ其中間ナル一種ノ物質ヲ以テ牀ノ内外部ヲ共ニ強固ニナセリ」ト記シ六脚蟲、蜘蛛、蠕蟲等ヲ總括シ後世きゆびえー(Cuvier)ガ關節動物Arthropodaニ彙派タルモノアリキ、第七章ニ於テ再說シテ曰ク「此類ハ種々ノ形狀ノモノヲ含ミ、蜜蜂、花蜂、胡蜂、及ビ此類、之等ニ反シ翅ハ鞘ニ包マレタルモノ即チ金龜子、步行蟲、芫菁及ビ此類等自然的ニ關係セル處ノ總牀ニ就テハ普通名ノ與ヘラレタルモノナシ」、後世ノ斯學者ガ双翅目(Diptera)ト鞘翅目(Coleoptera)トヲあ氏ノ創定トスルハ予ニ於テハ信偽未ダ俄ニ判シ難シ、予ハ前記

ノ記事ニ仍テ膜翅目(Hymenoptera)ノ既知ヲ主張シタキナリ、又之等ノ外景ヲ説明シテ「昆蟲類ノ普通ノ部分ハ頭、腹、及ビ第三部(胴)——コハ兩者ノ間ニアリテ他動物ニ於ケル如ク胸及ビ背ヲナス、——多クノ昆蟲類ニアリテハコハ單一ナルモノナレドモ長形ノ昆蟲類ニ於テハ多數ノ脚ヲ有シ中部ハ關節ノ數ニ同ジ」ト以テあ氏ノ昆蟲類ノ範圍ヲ一層明了ニ知ルベキナリ。

あ氏ハ單ニ動物ノ分類ノミニ止マラズ解剖生理、生態等ニ留意シ屢々後世ノ學者ヲ驚倒セシメタリ、例之、昆蟲類ノ雄ハ雌ヨリモ一般ニ小形ニシテ多數ナルヲ知リ、蜜蜂ニツキ幾多ノ實驗ヲ記シ、ソノ働蜂ガ或特別ノ花ヲ定メテ集蜜スル奇妙ナル事實ヲ觀察シ、女王ガ七歳ノ長齡ヲ保チタルヲ認め、ソノ受精セザル卵モ亦能ク發生スルコトヲ得ルヲ知レル等實ニ敬服スベキモノ多シ、西歷千八百四十年頃しいばるCarl von SeiboldカハかるRudolf Leuckart兩氏ガ實驗ニヨレバ蜜蜂ノ卵ハ雌雄交尾シテ生スルモノハ雌トナリ交尾セズシテ生ルモノハ雄トナルト云フ、之レあ氏ノ說ノ正鵠ヲ證明スルモノナリ、然レトモ時代智識ハコノ碩學ニ於テモ見ラル曰ク、「之等ノ昆蟲類ニ就テ蚤ハ彼等ガ常ニ集マル乾燥セル糞ノ腐敗セル一少量ヨリ生ズ、床蟲ハ動物ノ身体ニ集マル處ノ濕氣ヨリ出テ、疥癬ハ他動物ノ肉ヨリ生ズ、ソハ彼等ノ發生セザル以前ニ濃汁ヲ含マザル小瘡トシテ存在シ、ソノ穿タル、ニ及ンテ疥癬其内ヨリ遁出ス」トあ氏モ亦偶生論者タリシハ惜矣、れをみゆるReummiあ氏ヲ評シテ、「あ氏自身ノ觀察記載ハ常ニ信ズルニ足ルト雖モ他人ノ觀察ヲ引用セルモノニハ往々荒誕無稽ノ牽強附會ノ說アルナリ、然モンガ後世ノ昆蟲類記者ニ履々繰返ヘサレツ、アルナリ」ト痛切ノ語トナスベシ、

あ氏ハ又分類ニ於テ屬(Genus)ト種(Species)トノ範圍ヲ確定セズ屢々混同シタリトハ動物學者あがれ一ガ自著分類論(Agassiz—An essay of classification. 1858)第八章ニ於テ批評セル處ナリトス。ありすとてれすが紀元三百二十二年ヲ以テかるしすニ死スルヤ世ハ再ビ動物學ヲ攻究スルモノナク僅ニ羅馬ノぶりにうすPinus(A. D. 23—79)ニヨリテ編述セラレタル博物學(Historia Naturalis)參拾卷アルノミ、而シテ昆蟲類ハソノ第拾壹篇ニ論セラレタリ、其主ナルモノハ蜜蜂、絹蟲、蟬、蝗蜘蛛、及ビ其他ノ普通昆蟲類ナリキ、ぶ氏ハ夫等ノ價值及ビ玉石混交ノ解剖、生理、習性等ノ觀察ヲ記載シ、昆蟲類ハ空氣ヲ呼吸シ高等動物ニ於ケル血液ヲ有セザレトモソレト同等ノ液ヲ有スト云ヘリ、彼カ甘藍ノ螟蛉ニ就テノ說ハ詩的ノモノナリ、曰ク「早春甘藍ノ葉ニ宿レル露滴ハ陽光ニヨリテ濃厚トナリ粟粒大ニ縮少ス、コレヨリ後ニ小蛆ヲ出シ後三日ニシテ螟蛉トナル」ト、之レありすとてれすが胡蝶ハ螟蛉ヨリ爲ル、螟蛉ハ菜葉ヨリ化成スト云フ珍說ニ一步ヲ進メタル奇說トナスベシ、ぶ氏ノ分類ハあ氏ノモノヨリモ進歩セルモノニアラズ唯當年ノ諸說ヲ網羅セルニ過キズ、ぶ氏ノ著書ニ就テ精研セルきゆびえ——ハ此書ヲ以テ往古ニ於ケル一大產物ノ一トシテ置クベキヲ云ヘリ、而シテあ、ぶ兩氏ノ著書ハ第拾六世紀頃マデハ動物學者間ニ於ケル重要ノ書ナリキ、ぶ氏ガハすびあすノ噴火ニ死シテヨリ以來壹千餘年間ハ宗教ノ勃興ト共ニ動物學ノ研究ハ殆ト絶滅シ迷信妄說ノミ流行シ全ク動物學の闇黒時代トハナリ終ニス、

燈火ノ將ニ滅セントスルヤ一明ヲ殘ス、動物學ノ絶エントシテ豈一明ナキヲ得ンヤ、爰ニ千二百十年

獨乙皇帝よりつひ陛下 Friedrich der Gross 自國ノ語ヲ以テありすとてれすノ遺著ヲ翻譯セシ
メンガ同國ニあるべると、ふさん、ぼるすたつと Albert von Bollkall. ト云フモノアリ、専ラありす
とてれすノ著書ヲ研究シ各地ヲ遊歴シテ此派ノ學術ヲ弘布シタリ、當時希臘ノ地ハ兵火騷亂ノ巷タ
リシガ千四百五十三年もはめつと二世ガこんすたんちのーぶるヲ陥レテヨリ僧侶、學者ノ他國ニ走ル
モノ多カリキ、コレ雖テ絶エントシタル動物學ヲ蘇生回復セシメタル直接ノ原因トス、而シテ印刷術
ノ發明モ期學ノ普及ニ與テカアリシ、之等ニ仍テ第貳期ハ生レ來レリ、第貳期ニ於ケル昆蟲學者トモ
稱スベキハげすねる、あるごろはんでい、もーふへつと、きるへる諸氏トス。

こんらーじ、げすねる Conrad Gessner (1516-1565) ハ瑞西ちうりつひノ醫師ナリ、治ネク古書ヲ涉
獵シテ自己ノ觀察ト圖版トヲ追補シ「動物史」三卷ヲ著ス而モ千五百六拾四、五年ノ疫病ニ斃レテ公
ニスルニ至ラザリキ、該稿本ハ移リ移リテろんごん府ノ醫師もーふへつと Moulet (1550-1604) ノ手
ニ落チシカバも氏ハ之ヲ整理シ猶百五拾圖ヲ増加シタルモ不幸亦モヤ出版セルニ至ラズシテ逝キヌ、
カクテ後百年ヲ經テ千六百三拾四年ニ至リちやーれす一世ノ待醫ておごる、めーやん公・Sir The-
odor Mayerne ニヨリテ公ニセラレヌ、ちやーれす Moulet's Theatrum Insectorum トミテ知ラル、モノニミテ
四百餘ノ著者ヲ參照シ五百ノ木版圖ヲ含メル當世唯一ノ昆蟲書ナリシナリ。

うりせ、あるごろはんでい Ulysse Aldrovandi (1522-1605) ハ伊國ぼろにの府ノ貴族ニシテ同大學
ノ教授ナリキ、自著博物學 (Historia Naturalis. 1599-1640) 拾四卷アリ、ソノ多部分ハ死後ノ出版

ニ係リ昆蟲類ハ關節動物 (De animalibus Insectis) ト題シ第九卷ニ收メラレ生前ニ (1602) 發表セラ
レヌ、あるごろはんでいノ分類ハ居所ニヨルモノニシテ真正ノ昆蟲類ト蠕蟲類トヲ混同セルモノナリ
同氏ノ二分類ハ陸棲及ビ水棲昆蟲類トナシ更ニ之ヲ翅ノ數及ビ性質ニヨリテ分類スル點稍近世ノ分
類法ニ似タリ、らどれーる Latreille ハ評シテ「不消化煩雜ノ著書也」ト、らどるごーる Lacordaire
ハ「昆蟲研究ノ趣味ヲ鼓吹セル勢力ヲ認ムト云ヘリ。

あたなせ、きるへる Athanasius Kircher (1602-1680) ハ僧侶ニシテ後、羅馬大學ノ數學教授タリキ、
千六百七十八年あむすてらだむニ於テ著書七卷ヲ出ス、偶生説ニ關スル説話アリ、氏ハ採集家ニシテ
其標品ハぼなんにうす及ビばたら兩氏 Ronaninus et Battana 著るへる博物館 (Museum Kircher-
ianum) ニ記載セラレタリ。

此第貳期 (1550-1650) ニ於ケル斯學ハ唯古書ノ研究、敷衍ニ止マリ特別ニ注意スベキモノニアラザ
リシ、之レ孔孟ノ死後唯々其説ヲ奉戴シ訓話、註釋ニ汲々タリシト一般ノ形勢ナリキ、唯千五百九拾
年ニ獨國みつてるぶるひノ人やんせん父子 Hans und Zacharius Jansen ニヨリテ顯微鏡ノ發明セ
ラレシコトコレナリ、之レ實ニ次期ノ動物學ニ至急ノ變化ヲ與ヘタルモノナリキ。

何レノ國ニモ腐草化爲螢テノ月令流ノ信者ハアリシモノニテ當年問題ニ自然發生説 (Spontaneous ge-
neration) ナルモノアリ、一例ヲ示セバ蜜蜂ハ綿羊又ハ牛ノ死體ヨリ發生シ、黃蜂及ビ圓蜂ハ馬匹ノ死
屍ヨリ、金龜子ハ驢ヨリ、猶草木汲土等ヨリモ生ズルモノアリト、コレ我が國ニ於ケル保食神ノ死骸

ヨリ牛、馬、種、稻、大豆、小豆、及ビ蠶等生レタリト云フ傳説ニ似テ面白キコト、云フベシ、之レ
埃及、へぶりゆ、ふのなきあ、希臘ノ各時代ヲ通ジテノ生物思想ニシテありすとて、ぶりにうす
ノ學術家ガ又時ニ此説ヲ承認シタルヲ以テ見テモ亦當時有力ナル説タリシヤ疑フベカラズ、然レドモ
科學ノ進歩ハ之等ノ説ヲ承認セズ遂ニ鐵槌ヲ下サントセリ、爰ニ伊太利ニふらんせすこ、れでいば
mesco Rati (1626-1697) ナル醫師アリ、迷信ノ帥ヲ宣シ「昆蟲發生上之實驗」(1668) ナル一書ヲ
公ニシテ偶發説ノ妄ヲ鳴ラシ李時珍ガ「蛆蠅之子也」ト喝破シタルト同一ノ卓説ヲ述ベタリ、然レド
モ蟲癭ニ就テハ「夫等ノ昆蟲類ヲ包ム處ノ植物魂」ト稱セリ、去レド之レヲ以テ氏ノ學術上ノ功蹟ヲ
没スルハ否也、何トナレバ近世ニ於テヌラ猶ほすこーる Pasteur ていんだる Tyndall 諸氏トぶーしゆ
Pouch ばすちあん Bastian 諸氏トノ間ニ偶發説ノ爭論アリシ程ナレバナリ。

當時又一ノ發生學上ノ問題アリキ、ソハ「總テノ動物ノ諸部ハ皆初メハ混沌タル卵子内ニ一定ニ形成
セラレタルモノニシテ精蟲ハ單ニ卵子ノ發生ヲ促スノミ」ト云フ豫成論 (Preformations-Theorie) ト、
此反對ノ「總テ精卵共初メヨリ存スルニアラズシテ漸ラ追フテ生ズルモノナルガ故ニ成長セル動物ト
ハ全然異ナルモノナリ」ト云フ漸成論 (Epigenesis-Theorie) トコトナリ、はーれる Albercht von
Haller (1708-1777) ハ前説ヲ主張シ、後説ハ英國ノはーべー William Harvey (1567-1657) ニヨリ
テ説明セラレシコトアリシ、然レトモはーれる一流ノ既成論勢盛ニシテはーべーハ遂ニ敗北スベク餘
義ナカリキ、ぼんねつ Charles Bonnet (1720-1793) ハ昆蟲學說 (Traité d'inséologie. 1745) ヲ

刑行シテ蚜蟲單性生殖ヲ論セリ、ソノ論旨ハ一個ノ蚜虫ガ單獨生活ニ於テ第拾一日目ニ一個ノ娘虫ヲ
生シ後二十日間ニ又九十四個ノ娘虫ヲ生スルヲ觀察セルヲ以テ豫成論ノ勢ハ益盛シナラントセリ、然
ルニ後うおるふ Cosper Friedrich Wolf (1730-1794) ガ發生論 (Theoria Generationis. 1759) ヲ公ニ
シテ漸成説ヲ論シタルモ用キラレズ降テ千八百五拾一年れまつく Remak 出テしゆはん Theodor Schwann
動物細胞ノ發見ヨリシテ細胞説ヲ發生學上ニ適用シ「動物ノ卵ハヌベテ一個ナル分裂ニ分裂ヲナ
シ生殖スルモノナリ」ト論セリ、爰ニ初メテ漸成論者ノ勝ニ歸シ數百年間ノ疑問ハ解決セラレタリ。
第參期ニ於ケル昆蟲學者ヲ一瞥センニ獨逸ニびーだる Johann Goetart (1620-1668) ナル畫工アリ
「昆蟲自然史及變態」"Metamorphoses et Historia Naturalis Insectorum" 1662-1669. 三卷ヲ公ニシ
彩色版ヲ附シ蝶蛾ノ生活史及ビ蜂蟻類ニ關スル説話ヲ收録セリ、佛國巴里科學協會ニれおみゆうる
Reaumur (1683-1753) アリ卓越ナル昆蟲學者ニシテ殊ニ昆蟲類ノ習性、變態等ヲ研究シ Mémoires
pour servir à l'Histoire des Insectes. 1734-1742. 七卷ヲ刊行セリ。

昆蟲類ノ解剖モ亦此頃ヨリ始マレリ、ソノ開祖トモ云フベキヲ伊國ノまるびん Marcello Malpighi
(1628-1694) トス、彼ハまるびん管 (腎臟管) ニヨリテ何人ニモ知ラル、ガ著作ニ蠶解剖 (1664)
ナルモノアリ、ソレニ於テ彼ハ背脈管ヲ心臟ト呼ビ猶内外ノ諸機關ヲ記載セリ、次テすわんめるだむ
Johann Summerdam (1637-1685) トウへんへーく Leucenhoeck (1632-1723) 等顯微鏡的研究ヲ行
ハリ、すわんめるだむいあむすてらだむノ醫師也、一般昆蟲類ノ解剖ニ意ヲ注ギ普通昆蟲史 (Historia

Insectorum Generibus. 1689) 拾二ぶれ一と附ヲ公ニセリ、*氏ノ論集ハ自然文庫 (Biblia Naturae*
1737-8) ニ收メラレンソノ分類ハ變態的分類 (*Metamorphic system*) ト呼バル、モノナリ。

- (一) 無變態類、—— 脱皮スレトモ原形ヲ變セザル類、
- (二) 變態類、

(イ) 不完全變態類、—— 各時代トモ活動シ蛹ハ幼稚ノ翅ヲ有シ成虫ト變スルヤ完全ノ翅トナルノ類、

(ロ) 完全變態類、—— 蛹時代ニハ動ク能ハザル翅ヲ有スルノ類、

(ハ) 圓蛹類、—— 蛹時代ニハ動キ得レトモ四肢ナキノ類、

すわんめるだむノ分類ヲ受ケテ更ニ動物學ニ貢獻セルモノヲ英國ノれー *John Ray* (1628-1704-7) トナス、彼ハ神學者ニシテ卓越ナル動物學者ナリ、「種トハ同一ノ親ヨリ生セシ者也」ト云ヘリ、著書數種アリ、就中「昆蟲史」*Historia Insectorum*. 1700) 最モ知ラル、ソノ分類ハ、

- (一) 變態類、*Coleoptera*. *Aneloptera*. *Diptera*. *Tetraptera*.
- (二) 不變態類、*Polyptoda*. *Ocypoda*. *Hexapoda*.

此期ニ於ケル唯一ノ分類ハわりすねーり *Antonio Vallisneri* (1661-1730) ニヨリテナサレタリ、曰ク(一)植物内又ハ植物ニ生活スルモノ、(二)水棲スルモノ、(三)土地、動物ノ死屍ニ生活スルモノ、(四)他動物内又ハ動物牀ニ生活スルモノ等トナスヲ大要トス。

昆蟲學ニ記載ノ必要ナルハ勿論ナルガ往時ノ記載ハ今日吾人ノ断定ニ苦シムモノアルニソガ圖版ニヨリテ補ハル、ハ斯學者ノ幸トナス處也、此頃めりあん夫人 *Madam Maria Sibilla Merian* (1607-1717) アリテ夫ぐらつふ *J. A. Graff* ハ銅版者也、子ニ女モ亦繪畫ヲヨクシ母早世シタルモノノ遺志ヲ繼ギ百ぶれ一と色彩圖ノ幼蟲變態書 (1674-83) 南米すりなむノ昆蟲類 (1705) 百八十ぶれ一と附歐洲昆蟲書 (1730) 等ヲ出シテ昆蟲生活史ヲ闡明セルモノ少ナカラズ、次デふりつし *Johann Leonard Frisch* (1666-1743) 出テ *Tutisland* ノ昆蟲類ヲ解説シ、かてすびー *Mark Catesby* (1679-1749) ハ北米旅行ニヨリ著作シ二百二十ぶれ一と彩色版ノ博物書ニ卷ヲ公ニセリ、英國ノ畫家 *Flaegras Albin* あるびんハ英國昆蟲自然史 (1720) 及ビ蜘蛛及ビ珍奇之昆蟲類ノ解説 (1736) ヲ出シタルガ、ソレニ於テ食草、幼蟲、成蟲、時ニ寄生蟲ヲ圖シ簡單ナル説明ヲナシタリ。

要スルニ此時代 (1650-1750) ハ純正昆蟲學ノ生レントシテ生レズ生理、生態、解剖等ノ研究行ハレ次期ノ發達ニ資セシ處少ナカラズ。

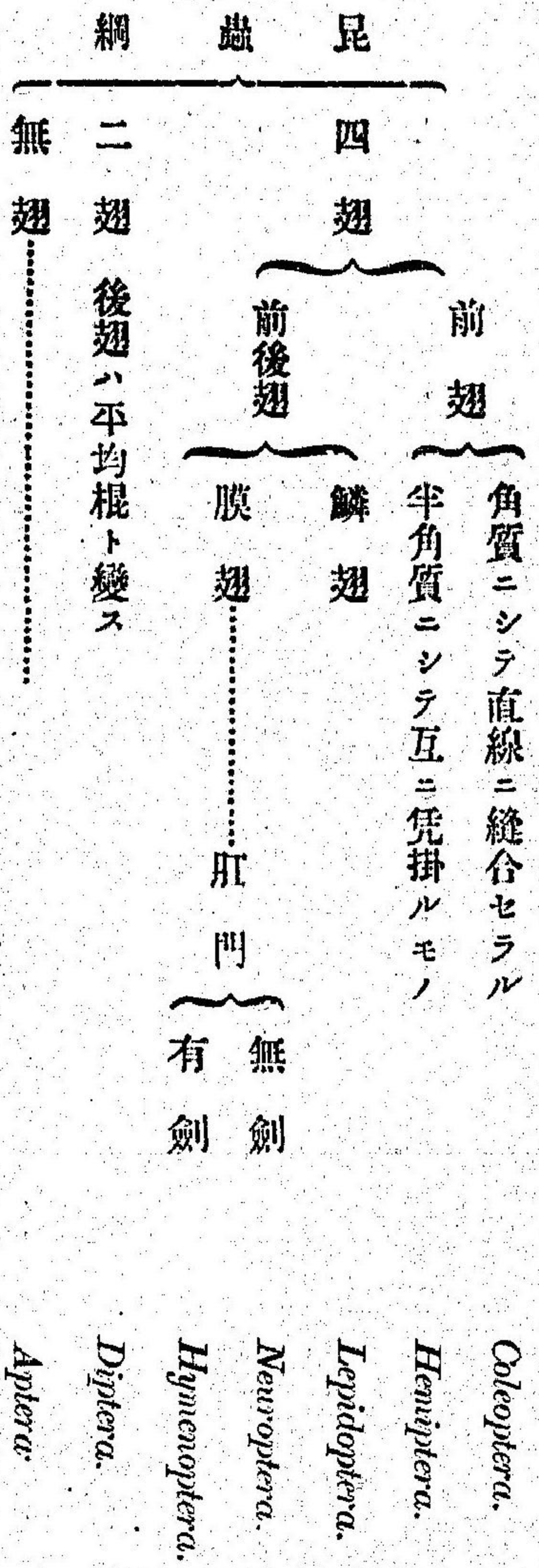
爰ニ千七百〇七年五月二十三日博物學中興ノ祖トモ云フベキ、かーるふおん、りんね *Carl von Linné* = *Cronus Linnæus* (羅甸語形) ハ瑞典國らしゆるとニ生レヌ、初メ靴工場ノ見習タリシガ後るん *ニ* 大學ニ藥學ヲ修メ一度すとつくほるむに開業セシモ後うぶさら大學ニ博物學教授トナルニ及ンデ名聲全歐土ニ噴々タリキ、著書、自然綱目 *Systema Naturae* ノ初版ハ千七百三十五年ニ出版セラレ、ソノ第拾版ハ千七百五十八年ニ貳卷トシテ出版セラレヌ此版ニ於テ彼ノ二名式 (*Binomial System*) ハ初

メテ用キラレタリ、(此版ニ先タツ一年前即チ千七百五十七年りんねノ弟子くろーく Class ナル畫工、
二名式學名ヲ自著ニ採用セルモ名聲赫々タルりんねニ蔽ハレテ後人コレヲ知ラズ、)コレ今日動植物ニ
二字ノらてん語ヲ附スル習慣ノ濫觴ニシテ今日ニ致ルマデ百五拾年間、各國博物學者ノ襲用スル處ニ
シテ正確ナル生物分類學ノ基礎ハ實ニ此時ニ定マレルナリ、第拾二版ハ千七百六十六年ノ出版ニカ、
リ三卷ヨリ成リ、動物ノ部ノミニテモ千四百二十七頁ニ達シ昆蟲類ノ記載セラレタルモノ二千四百餘
種アリト云フ。

りんね(李那)ハ動物界(Kingdom)ヲ分チテ哺乳類 Mammalia 鳥類 Aves 兩棲類 Amphibia 魚類
Pisces 昆蟲類 Insecta 蠕蟲類 Vermes 等ノ大綱(Class)ヲ置キ、昆蟲類ヲ翅ノ數及ビ性質ニヨリテ四
目トナセリ、之レヲ翅分類法 Alary system ト云フ。

- 一、四翅アレントモ前二翅ハ甲殼質 (鞘翅目及ビ直翅目ヲ含ム) Coleoptera.
- 二、二翅又ハ四翅 (鱗、脈、膜、双等ノ四目ヲ含ム) Angiptera.
- 三、四翅アレントモンノ前翅ノ半部ハ膜質 (半翅目ヲ含ム) Hemiptera.
- 四、無翅ノモノ Aptera.

然レドモ千七百六十七年ノ第拾貳版ニ於テハ下記ノ分類法ヲ用キタリ、之レ今日李那ノ七目分類ト云
フモノナリ。



之等ノ各目(Order)ヲ更ニ科(Family)トナシ屬(Genus)トナシ而シテ種(Species)ヲ命ス、二名法
トハ屬ト種トノ二名也、例之ハ、Cimex Lectularis. L. (南京蟲)ナル學名ニ於テ Cimex 屬名ニシテ
Lectularis 種名、而シテ、L.ハ命名者 Linnéノ畧字ナリトス、彼ガ二名法ヲ採用セントスルヤ治ネ
クハふりうノ彫刻、希臘、羅馬ノ文書ヲ涉獵シテ既知種ノ名ヲ知ランコトヲ欲シ異名ノナカランコト
ヲ期セリ、ト近時徒ニ學名ヲ附セントスルモノヲ慚死セシムルニ足ル、然レドモ李那ハ「種トハ神ノ
創造セルモノ、内のお水災ヲ免レテ現今存在スル者」トナシ種ヲ以テ萬古不易ノ物ト認メタリキト
云フ。

當時知名ノ學者ニ *Roesel von Rosenhof* (1705—1759). *Schaffer* (1718—1790). *De Geer* (後章參照) *Scopoli* (1723—1788) *Craffroy* (1727—1810) 等アリ、解剖學者らゝをねー *Pierre Ligonet* (1706—1771) (1789) ハ今日マデモ引用セラル、精細ナル解剖圖ヲ出セリ、前記諸學者ハ分類、生態、生活史等ニ就テ研鑽セル處少ナカラズ、要スルニ千七百年ヨリ同四十年頃迄ハ殆ト李那ノ獨舞臺ト云フモ不可ナク、生物分類學ノ確立モ此時ニ初マル、昆蟲(分類)學ノ分科モ亦此頃ニ萌芽ヲ發セルモノト云フモ豈不可アラシヤ。

李那ガ千七百七十八年一月十日ヲ以テうぶさら府ニ近キはまびーニ死スルヤ、彼ガ學徒ハ相携ヘテ分類學ニ盡セリ、此間五拾年 (1775—1825) ハ全ク分類記載ノ最モ盛ニ行ハレタル時代トス、李那ノ高弟ニふあぶりしゆうす及ビデ、あいはアアリ、各獨創ノ分類ヲ發表シ昆蟲學ヲ組織セル點ニ於テ知ラル。

よはん、くりすちあん、ふあぶりしゆうす *John Christian Fabricius* ハ千七百四十五年丁抹國ニ生レ同八百〇八年ヲ以テ永眠セラレヌ、主ナル著書ニ *Systema Entomologica*. (1775). *Genera Insectorum*. (1777). *Species Insectorum*. 2 vol. (1781) *Mantissa Insectorum*. 2 vol. (1778). *Entomologia Systematica*. 4 vol. (1792—4). *Supplementum Entomologicae Systematica* (1798) 等アリ、之ハ實ニ昆蟲

學ノ組織的記説ノ第壹陣ニシテ佛國ノ昆蟲學者 *Latreille* ガあひえーノ動物界 (*Cuvier-Le Règne Animal*. 1828) 關節動物ノ序論ニ於テ「此等ノ動物ハ彼ガ動物學ニ於ケル最初ノ研究目的物タリキ、

而シテ之等ハ李那ノ高弟ニシテ彼ノ友人タルふあぶりしゆうすニヨリテ創メラレタリ、而シテ彼ガふあぶりしゆうすノ著書ニ特別ノ尊敬ヲ拂フヤ必矣、」ト云ヘルハ宜ナリト云フベシ、ふ氏ノ分類ハ専ラ口部ノ構造ニヨルモノニシテ口部分類法 (*Charian System*) ト稱セラル。

ふあぶりしゆうす分類法

咀嚼口昆蟲類 (*Relatus*ニ據ル)

A、顎ニ對アルモノ

a、下一對ニ鬚ヲ有ス

1. *Elaeuthera* (*Coleoptera*. I.) 下顎ハ裸出セラレ自由、

2. *Ulonida* (*Orthoptera*. *olin*) 下顎ハ葉片ヲ以テ被ハル、

3. *Synsitta* (*Nemoptera* I. ノ一部) *Thysanura Latr*) 下顎ハ膝狀又ハ長形

4. *Pezata* (*Hymenoptera*. I.) 下顎ハ角質、扁壓セラレ居ルカ、長形ナルカ、

5. *Odonata* (*Libellula* I.) 下顎ハ角質齒狀、

b、下顎ハ鬚ヲ有セズ

6. *Miseta* (*Myriapoda*. *Centipeds*.)

B、角質顎ノ一對ハ一個ノ爪ヲ備フ

7. *Urogata* (*Arachnida*)

9. 頭ハ二對以上ハキ

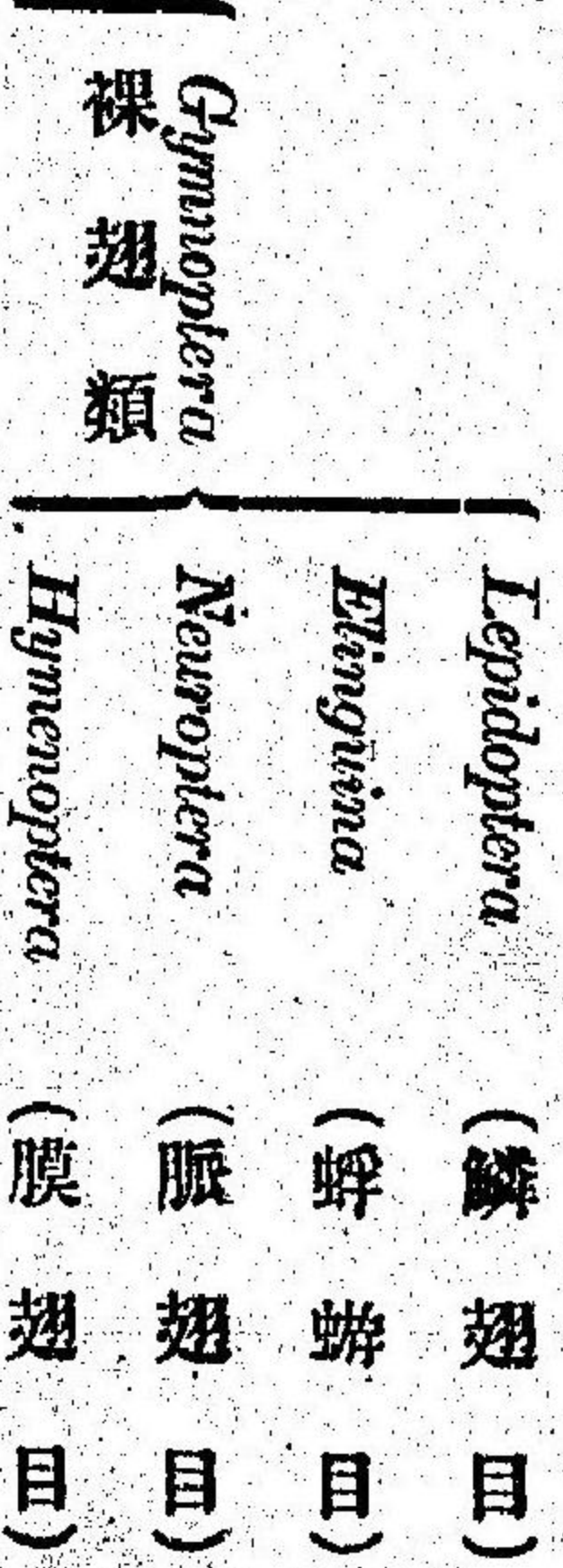
- 8. Polygonata (Crustacea) 下唇ノ外方ニアル頭、
- 6. Kleistognata (Brachyura, arab.) 下唇ノ内方ニ位スル頭、
- 10. Paucimata (Macrura) 頭ハ外方ニアリテ鬚ヲ以テ覆ハル、

吸収口昆蟲類

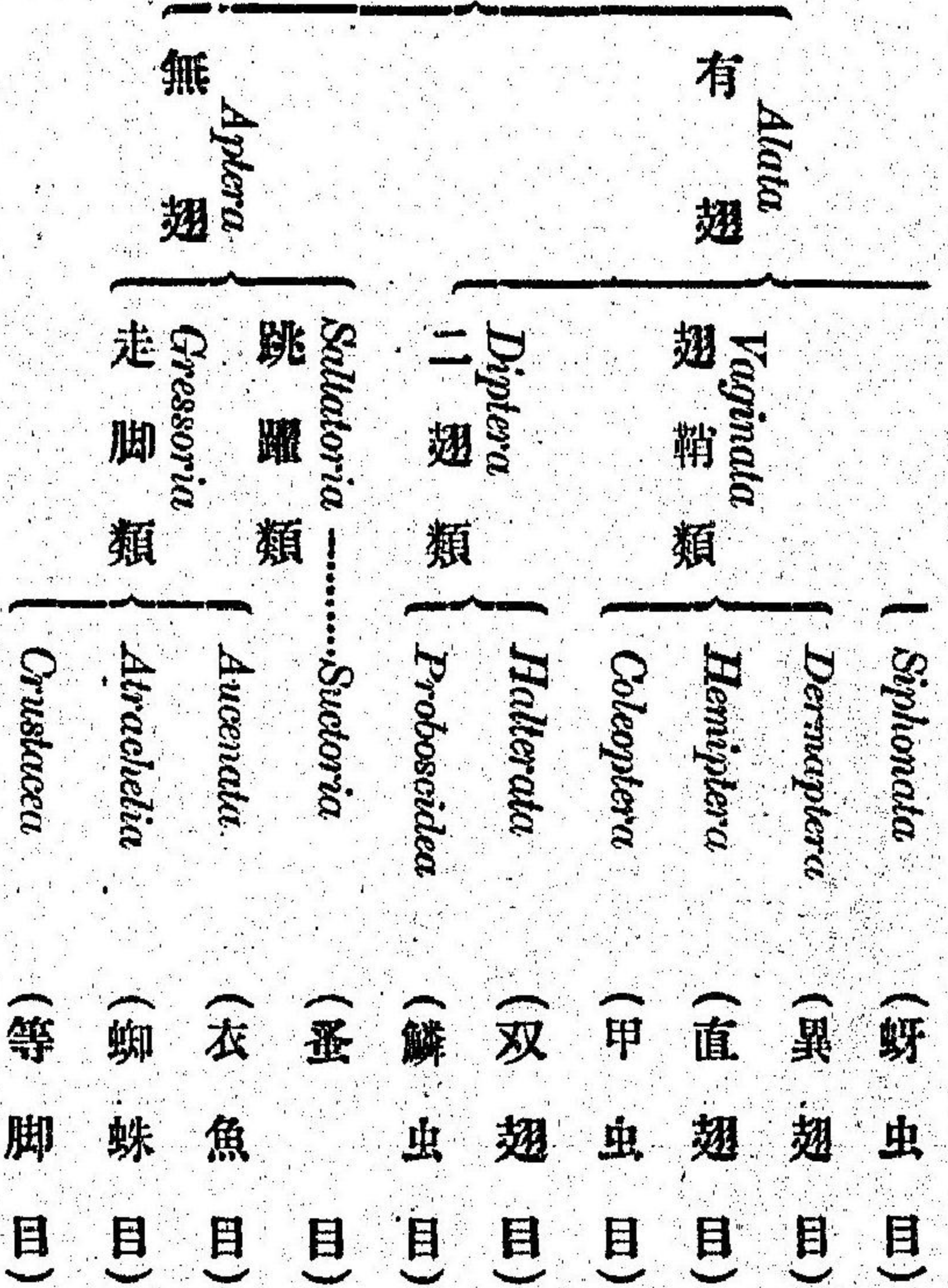
- 11. Glossata (Lepidoptera L.) 頭鬚ノ間ニ螺旋狀舌アリ、
- 12. Rhynchota (Hemiptera Latr.) 口吻ハ關節鞘ヲ以テ包圍ス、
- 13. Antliata (Diptera) 口部ハ柔軟無節ノ吸収口、

此分類法ハ現今僅ニ二三目ヲ用キラハ、ニ過ズト雖モ當時コノ分類ヲ案出シタルハ尊敬ヲ拂フベキナリ

カー、ドゥー、& Carl De Geer (1720-1778) ハ瑞典ノ貴族ニシテ著書ニ *Memoirs pour servir a l'histoire des Insectes. 7 vols (1752-78)* マリ、ソノ分類ヲ畧解スレバ



昆蟲類
Insecta



次ハドゥー、& Latreille (1762-1833) 出ハ、 *Preise des caracteres generiques des Insectes. 8 vols*

- (1794) ハ著シキ著、 *Aptera (無翅目)* (一) *Suctoria (吸収目)* (二) *Thysanura (彈尾目)* (三) *Parasita (寄生目)* (四) *Acephala (無頭目)* (五) *Entomostraca (切甲目)* (六) *Crustacea (甲殼目)* (七) *Myriapoda (多足目)* 等ノ目トナシキ著、 *Insecta (關節蟲)* ハ *Condilopoda (節足類)* ト改稱シ (一) *Crustacea (甲殼類)* (二) *Arachnida (蜘蛛類)* (三) *Insecta (昆蟲類)* トナシ又、ドゥー、& ドゥー、氏ノ昆蟲類ハ次ノ諸目ヲ含ト、 *Coleoptera, Orthoptera, Hymenoptera, Lepidoptera, Suctoria, Thysanura, Myriapoda, Parasita, Acaphala*

等とナリ。

「動物哲學」ノ著者 Lamarck (1744—1829) ハ無脊推動物書 (*Histoire Naturelle des Animaux sans vertèbres* (1815—22)) ニ於テ感覺動物及ヒ無感覺動物ノ二類ニ別チシガソノ感覺動物ヲ (一) 昆蟲類、(二) 蜘蛛類、(三) 甲殼類、(四) 軟棘類 (*Mollusca*) ノ四類トナシ昆蟲類ハ李那ノ七分類ニ直翅目 (*Orthoptera*, Olivier) ヲ加ケタレニ過ギズ

曩ニふもよりしゆすニ學ビシト云ハル佛國ノ名ビネー Cuvier (1769—1832) ハ古生物學者並ニ比較解剖學者トシテ仰カル、人、動物界ヲ脊推動物 *Vertebrata* 關節動物 *Articulata* 軟棘動物 *Mollusca* 射線動物 *Radiata* 等トシ關節動物ハ四肢神經環節ヨリナルト腹部ノ下面ヲ神經連鎖ノ貫通セルヲ云フトナシ *Leçons d'Anatomie Comparée* (比較解剖論) ニ於テリハハニふもよりしゆすトノ分類ヲ折衷シテ一家ノ分類法ヲ案出シタリ

(I) 有翅類、 *Gnathoptera* (甲殼類ヲ除ケル李那ノ無翅目) *Neuroptera*, *Hymenoptera*, *Coleoptera*, *Orthoptera*.

(II) 無翅類、 *Hemiptera*, *Lepidoptera*, *Diptera*, *Aptera* 而シテ動物界 (前出) ニ於テハ關節動物ハ五部ニシテ同類ニ (一) 甲殼類 (二) 蜘蛛類 (三) 昆蟲類ニ別チ昆蟲類ハ (1) *Myriapoda* (*Myriozoa Fab*) (2) *Thysanura* (3) *Parasita*, *Latr* (*Anoplura*, *Leach*) (4) *Sudoria*, *De Geer*, (*Siphonoptera*, *Latr*, *Aplyra*, *M* *Leay*, *Aphaniptera*, *Kirby*) (5) *Coleoptera*, *Em* (*Eleuthera Fab*) (6) *Orthoptera* (*Ul-*

史 小 學 蟲 昆

onata Fab) [*Dermaptera* *De Geer*] (7) *Hemiptera* (*Rhynocot* *Fab.*) (8) *Neuroptera* (*Odonata* and *major part of Synisctida Fab*) (9) *Hymenoptera* (*Pizala Fab*) (10) *Lepidoptera* *Im* (*Glossata Fab*) (11) *Phlebotomera* (*Strepsiptera*, *Kirby*) (12) *Diptera* (*Antliata Fab*) 等ハ拾二目トナシキ、名ビネーハ當時有名ナル學者ニシテ後世之ニカ分類ヲ記述スルモノアリ、あがしニ *Louis Agassiz* (1807—1873) ノ如キハソノ最タルモノナリ、名氏ハ自カラシ “ *Natura non facit saltum*” 自然ハ變化ヲ與ヘズ) ヲ確信シ世人ノ氏ノ分類ヲ *La chaîne des êtres* (生物連鎖) ト云ヒリキ、然ト雖モ名氏モ亦李那ト共ニ種不變論者ナリキ、唯生物ハ神カ唯一回創造セシミアラズシテ拾數回創造セルモノナリト云ヒリ、之ハ李那ト五十歩百歩ニオナシキヤ。

當年ニ於ケル昆蟲學者ナシモノニ *Herbst* (1743—1807), *Thunberg* (1743—1828), *Fabricius* (前出) *Schrank* (1747—1835), *Latr. eille* (前出) *Dejcan* (1780—1845), *Spinola* (1780—1875), *Say* (1787—1845) ハソノ 蠶繭學者ニ *Esper* (1742—1810), *Hubner* (1761—1825), *Freischl*, (1776—1842) 又翅學者ニ *Meigen* (1761—1845), *Fallen* (1763—1845), *Wiedemann* (1770—1840), *Zetterstedt* (1785—1874) 膜翅學者ニ *Lepellier* (1770—1845), *Gravenhorst* (1777—1875), *Klug* (1775—1856) 解説及ヒ博物史ニ *Kramer* (1733—1782), *Hubner*, *Olivier* (1756—1814), *Smith* (1759—1828), *Humboldt* (1769—1859), *Sturm* (1771—1848) 解剖學者ニ *Dufour* (1782—1865), *Curier* ハソノ 應用昆蟲學者ニ *Peck* (1756—1820), *Clark* (1770—1860), *Roulle* (1784—1836), 新翅膜翅學者ニ *Kirby* (1759—1850), *Spence* (1775—1860)

史 小 學 蟲 昆

Pauser (1755-1829) マリ、雜誌ノ發行者ニ *Magazin für Insektenkunde* ノ創立者 *Wigger* (1775=1815) *Magazin der Entomologie* ノ記者 *Germer* (1786-1853) 等ノ諸氏アリ
此期ハ要スルニりんねノ學徒及ビソノ後繼者ニヨリテ經營セラレタルモノニシテ大學ノ教授又ハ醫師ヲ業トスルモノナリキ。

今ヤ第拾九世紀ノ昆蟲學ノ狀況ヲ語ラザルベカラズ、千八百拾九年英國ノまぐりー *Mac Leay* (1794-1865) ヲ *Horre Entomologica* ヲ著シ環循分類法 (*Circular system*) ト公ニスルヤ學者ヨリテ *Leclerc system* (折衷分類法) ト云ヘリ。

咀嚼口	異類	同例	吸收口
毛翅目	蛹ハ硬皮ヲ以テ圍マレ幼蟲ハ膜質脚ヲ有ス		鱗翅目
膜翅目	變態完全又ハ圍蛹、幼蟲ハ無脚又ハ蠕虫形、		双翅目
鞘翅目	變態完全		無翅目
直翅目	變態不完全幼蟲成蟲ニ類ス		半翅目
脈翅目	變態ハ各種亞不完全、幼蟲ハ六脚		同翅目

同國ノ *Kirby* 及 *Spence* ハ *An introduction to Entomology* (1828) ニ於テコトヲ繼承シテ

(I)、普通口器ハ顯著ニシテ完全ナル類、

鞘翅目、鱗翅目 (*Strepsiptera*) 膜翅目 (*Dermoptera*) 直翅目、脈翅目、膜翅目

(II)、普通口器ハ顯著ナラザル類、

半翅目、毛翅目、鱗翅目、双翅目、微翅目

等トナシ近世ノ分類學大家 *Westwood* (1805-1893) ハ名著 *An Introduction to the modern classification of Insecta* (1838) ニ於テ鞘翅目、脈翅目、鱗翅目、異翅目、膜翅目 (*Emplesoptera*)、鱗翅目、微翅目 (*Aphaniptera*)、直翅目、膜翅目、同翅目、双翅目、毛翅目 (*Trichoptera*) 等ノ拾二目トナシヌ、

ソノ昆蟲綱ナルモノカ屬スル節足動物 *Arthropoda* ナルモノハ *Bornmeister* (1843) ハ *Arthropoda* ニ起源 *Mincedward* (1845) ハ *Arthropoda* ト改稱シテ *Entomozoa* ニ收メシマ *Stannius* 及 *Siebold* (1845) ハソノ門トナシヌ、ソノ *Arthropoda* ノ現状ナリ、*Leuckart*——*Ueber die Morphologie und die Verwandtschaft Verhältnisse der Wirbellosen Thiere* (1848) ニハ *Arthropoda* ヲ甲殼類、昆蟲類、ニ分類シ昆蟲類ヲ多足類、蜘蛛類、六脚類 (*Hexapoda*) ニ分類セリ、

其ニ獨ニノウおるカ發生論ヲ公ニシテ用キラズ、去テ露國ニ至レルヨリ之レガ研究ハ盛隆トナリ、*Pander*. *Von Bienen. Kolliker*. *Vogt* 等出テ遂ニ發生學 (*Embriologie*) ノ分岐ヲ見ルニ至リヌ、特ニ *C. E. Von Baer* ハ種ハ僅少ナル祖先ヨリ發生シタルコトヲ解剖學上ヨリ主張シ發生學上ノ功蹟鮮少ニアラズ、當時ノ分類ハ形態的ノモノナルガ如上學者ノ輩出スルニ及ビ發生的分類ヲ試ムルモノアリキ、獨ニノ *Schelling* ノトニ *Phylogenie Schule* ハ説クヤマン、*Oken*. *Krieger*. *Bojanus*. *Spitz*.

Musclie. *Curtis*. 等諸氏ニヨリテ攻究セラレ、生理的分類ヲモ試ムルモノアルニ至レリ、今一例トシテをけん *Omnica* 1833—42 間ニナセル分類ヲ示セバ

(I)、有腸動物、(圓棘動物、觸感動物)

1、消化動物、

2、循環動物、

3、呼吸動物、

皮膚動物(蠕虫) 有鰓動物(甲殼類) 氣管動物(昆虫類)

(II)、筋肉動物(脊椎動物)、

此頃ノ昆虫學ハ單ニ分類ノミニ止マラス、生理・解剖モ亦著シク進歩シ *Syruss-Duerkheim*, *Andouin*, *Newport*, *Burmester* 諸氏出テ應用昆虫學ニハ *Kollar*, [*Guérin-Meneville*, *Ratzeburg*, *Fitch*. 等アリテ田圃害虫・森林昆虫・養蠶等ヲ研究セリ、分類學ニハ鞘翅學者ニ *Feschscholtz*, *Mannerheim*, *Jacob-daire*, *Mulsant*, *Cherolot*, *Aube*, *Waterhouse*, *Schneede*, *Moray*, *Melschulsky*, 双翅學者ニ *Desro-idy*, *Macquart*, *Foer*. 鱗翅學者ニ *Schaeffer*, *Boisduval*, *Zeller*, *Morris*, *Doubleday*, *Guenee*. 膜翅學者ニ *Brulle*, *Hartig*, *Schuchard*, *Smith*, *Kirchner*, *Dahlbom*, *Walsli*, 等諸氏アリ、然レハ分類學雜誌ノ必要ハ日ヲ追テ迫リシト見エ、*Annales des la Societe Entomologique de France* ハ佛國巴黎府ニ於テ千八百三十二年ニ發刊セラシ、*Transaction of Entomological Society of London* (1833) ノ

刊行ヲ見、*Entomologische Zeitung*, *Stetin* (1840.) *Linnaea Entomologica*, *Berlin* (1845) 等生ノ出テ、米國ニ於テハ *Journal of the Academy of Natural Science, Philadelphia* (1817) ニ於テ幾多ノ昆虫記事ハ發表セラレヌ、

爰ニ第拾九世紀ノ中頃ニ於テ記憶スベキハ *Charles Darwin* (1809—1882) ノ種源論 (*Origin of Species*. 1859) ノ刊行ト *John Curtis* (1798—1862) ノ農用昆虫書 (*Farm Insects*. 1860) トノ出版トニアリ、前者ハ純正昆虫學ニ後者ハ農用昆虫學ニ至大ノ影響ヲ及ボセリ、

だ一うゐん *Darwin* ノ種源論ハ自然淘汰ニヨリ生物ガ進化スルテヲ議論ニシテ千八百三十一年英國政府派遣ノ南米海岸測量船 *Beagle* 號ニ乗組ミテ五年間大洋諸島ヲ航シ動物學地質學ノ研究ヲナシ初メテ生物系統ニ關スル疑問ヲ生シ深ク研究セル結果、此著アルニ至レルナリ、著書ハ全拾五章ト緒論、及ビ種源ニ關スル沿革ヨリナル、ソレ結論ハ要スルニ凡テ生物始メヨリ多數ノ種ヲナセルニアラズシテ地球創造後最早ク出現シタル單細胞動物ガ漸次幾萬年ヲ經過スル間ニソノ子孫ノ内漸次形質ノ異ナリタルモノヲ生シ遂ニ分岐シテ動物トナリ植物トナリ之等動物モ亦漸次進化シテ今日ノ状態ニ至レルナリト、コレ生物ノ萬古不易ニアザルヲ云ヘルモノニシテ若モ季節ガ信スル如ク種ナルモノガ不變ノモノナラバ分類學者モ亦易々タルモノナルヤモ知レザレトモ實際ニ於テハ種ハ千變萬化スルモノナレバ分類學者ノ困難ハ素人ノ想像スルニ餘アルモノアルナリ、實ニ此ノ不朽ノ真理ヲ宣言セルモノヲだ一うゐんとナス、勿論、コレ以前ニ *Erasmus Darwin*, *Leonard*, *Saint-Hilaire* 諸氏モ亦進

化ノ理ニ留意シ Spencer. Wallace 氏等モ窮明セル處少ナカラズ、特ニわーれす Wallace (1822-1883) 氏(ハダ氏ノ長敬セル處ニシテ千八百五十八年七月一日李那學會ニ於テだーうゐんノ論文ト共ニ發表セラレシ論文ガ期セズシテ一致セルハ又奇ナラズトセンヤ、
 英國ノかーちす John Curtis ガ農用昆虫書ハ千八百四十一年ヨリ五十七年マデ英國皇立農會々報 (Journal of the Royal agricultural Society of England) 紙上ニ掛載セラレタル大英國農作物害虫局ヲ増補セルモノニシテ全拾六章ヨリナリ、英國及ビ愛蘭土ノ穀菽、蔬菜、牧草、等ノ害虫ノ形態、習性、發生、經過、驅除法敵虫等ヲ詳細ニ記載シ彩色版ヲ以テ之レガ説明ニ便セリ、コレ實ニ當時ニ於ケル應用昆虫學下ノ佳篇ニシテ大英百科全書 (Encyclopedia Britannica) ガ氏ヲ以テ應用昆虫學者ノ首領トナスハ必ズミモ母國ヲ愛スル所以ノミニアラザルナリ、勿論、氏以前ニ斯類ノ著ヲナセル者ナキニアラス、Poland Kollar ン Insects injurious to garden. Foresters and Farmers (1837) ヲ著シ Ratschky-Die Forstinsecten (1839-44) ヲ公ニシ猶、Tuschenberg. Sir Joseph Banks. Asa Fitch. Harris 等ノ著書ヲ刊行セルモノアルヲ以テかーちすヲ以テ首領トナサザル迄モ應用昆虫學ガ學術的ニ進歩シ以テ今日ノ淵源ヲナシタルハ疑フベカラズ、當時ノ應用昆虫學者ニハ歐洲ニ Reuter. Langpu. Tuschenberg. Kollar. 等アリ、米國ニ Saunders. Riley. Linner. Stingerland. 諸氏、豪洲ニ French Froggatt. Trigon 等ノ諸學者アリキ、如斯學者ガ研究調査セル結果應テ應用昆虫學今日ノ隆盛ヲ致スニ至レルナリ、先輩ノ力モ亦偉ナラズトセンヤ、

第拾九世紀ノ後半ハ昆虫學ハ分類、生理、解剖、發生、生態、應用等何レノ方面モ能ク發達セリ、分類學ニ於テハ鞘翅學者ニ Redtenbacher, Schumm, Leconte, Thompson, Blackburn, Crotch, Lindemann, Horn 等出タ、双翅學者ニ Snellen Van Vollenhoven, Rondani. Osten Sacken, Sabiner, Brunet, Bergsclann, Miki, Van der Wulp. 等、鱗翅學者ニ Stainton, Scudder, Edwards, Edwards, Grote, Fernald, 諸氏、半翅學者ニ Signoret, Stal, Douglas, Marshall, Uhler. 等、膜翅學者ニ Foerster, Kirby, De Saussure, Zeldach, Cresson, Proxacher, Basset, Brischke, Mayr, Holmgren 普通昆虫學ニ Gerstaecker, Lauekart. Leech, Donoven. Bates. Bruner, Kallenbach, Tschubberg, Lubbock. Riley. Wallace, Packard, Linner 等ノ諸氏アリ、古生昆虫學ニハ米國ノ Scudder. 解剖學ニハ Laboulbène 知名ナリ、
 壹千八百九十五年米國ニハねる大學教授トシテ John Henry Comstock. 昆虫全書 (Manual for the study of Insects) 一卷ヲ公ニス、コレ近代ノ高著ニシテ世界研究者ヲ益セル處少ナカラズ、此著、節足動物 Arthropoda ヲ甲殼綱 Crustacea 蜘蛛綱 Arachnida 多足綱 Myriapoda 昆虫綱 Hexapoda 等ノ四綱トナシ、昆虫綱ヲ下記ノ拾九目トナス、今之レヲ從來ノ分類ト對照シテ記スレバ畧下ノ如キモノナルニシ、
 かるしゆ、くらうす、
 こむすかつく

鞘翅目、

鞘翅目 Coleoptera.

膜翅目 膜翅目
 鱗翅目 鱗翅目
 雙翅目 微翅目
 雙翅目 (Aphaniptera)
 膜翅目 Hymenoptera
 鱗翅目 Lepidoptera
 雙翅目 Diptera

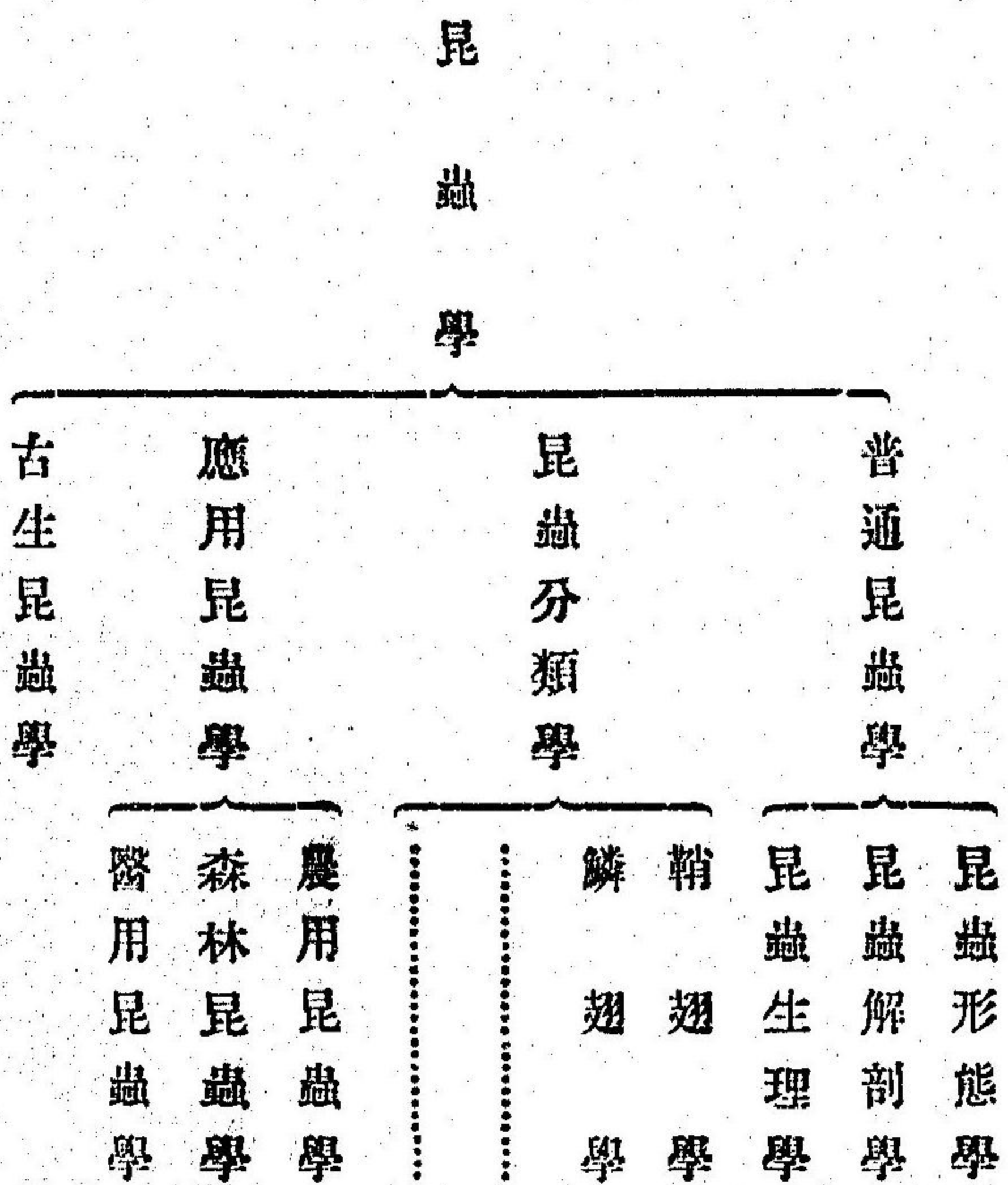
擬脈翅目 (Pseudoneuroptera)
 膜翅目 Neuroptera
 毛翅目 Trichoptera
 彈尾目 Thysanura
 直翅目 Orthoptera
 食毛目 Mallophaga
 半翅目 Hemiptera

無翅目
 半翅目
 直翅目
 食毛目
 半翅目

昔佛國ノきゆびえー時代ニハ動物界ヲ門 Branch. 綱 Class. 目 Order. 科 Family 屬 Genera 種 Species 等ニ分類セシモ今ヤ門 Branch. or Subkingdom 綱 Class 亞綱 Subclass 首目 Superorder. 目 Order. 亞目 Suborder. 首科 Superfamily 科 Family 亞科 Subfamily 屬 Genus 亞屬 Subgenus 種 Species 亞種 Subspecies. 變種 Variety 箇牀 Individual 等ノ拾六級トナヌニ至リヌ、於茲乎、各目又ハ各科ヲ專攻スル分類學者ハ現レ來リ各目ニ就テ記載スル分類雜誌ハ生ル、ニ至リヌ、豈又盛ナラストセンヤ、今 Entomological Addressbuch. 1905 ヲ見ルニ約九千名ノ昆虫學者ハ列擧セラレ、之等ノ學者ニヨリテ山川河海森林原野ノ六脚族ハ發見次第世界ノ學術界ニ披露セラル、ニ至リ年々發表セラル、新種ハ約八千ヲ下ラズンノ毎年ノ刊行物ハ約壹千種ニ及ブト云フ、殊ニ第貳拾世紀初年即チ千九百〇一年和蘭ノ碩學ゴフリーす De Vries ニヨリテ變異說 (Mutation Theory) ノ解釋セラレタルハ昆虫分類學者ニトリテモ重要ナル事件ト云ハザルベカラズ、又此前後ニ於ケル獨人ロいぶ Loeb ノ動物行爲ニ關スル新紀元の論文ハ普通昆虫學者ノ見逃スベカラザルモノトス、

人若シ米國ニ趣キわしんどんニ國立博物館ヲ訪レ、英國ニ航シテ大英博物館ヲ見、去ツテ伯林、維納ニ遊バンカ共處ニ見盡スベカラゾル標品ガ如何ナル待遇ヲ受ケツ、アルヲ知ラン、之レヲ各國ノ大學

乃至高等學校ニ見ルモ更ニ萬國動物學會ノ順序書ニ見ルモ亦以テ海外ニ於ケル昆蟲學ノ位置、勢力狀況等察知セラル、ニアラズヤ、今現今昆蟲學ト稱セラル、モノ、分科ヲ示セバ、



回顧スレバ二千餘年前ありすとてれすニ知ラレタル昆蟲類ハ僅々四十七種ニ過ギザリシガ李那ハ約三千種ヲ記載シ下ツテうゑすとぞーハ Westwood ハ二十二萬ト云ヘリシニ近クはんごりるしゆ Han Darsel ハ三十六萬ト稱セリ、而シテソノ全數ニ至リテハ今日ニ於テハ得知ルベカラザルニ似タリ、米國

ノらいれー教授 Prof. Riley ハ地球上ニ棲息スル昆蟲類ヲ概算シテ百萬トナシ、英國ノしやあぶ博士 Dr. Sharp ハ二百萬ト呼唱スルニ徴シテモ知ラルベキナリ、如斯、多數ノ六脚族ハ吾人ト居ヲ同フシテ渾圓球上ニ生活ス、爭カ其間ニ交渉スル處ナクシテ可ナランヤ、嗚呼コノ活劇ヲ研究シテ利用厚生ノ道ヲ講シ進シテ彼等ノ系統ヲ尋ネテ自然ノ秘庫ヲ探ル、昆蟲學モ亦人生必須ノ科學ト云フベシ、

敵テ江湖諸君ニコノ研究ヲ薦ム、

昆蟲學小史(終)

○昆蟲學講義發行ニ就テ讀者諸君ニ告グ

余ハコレ昆蟲學界ノ無名漢ニシテ學識經驗未ダ云フニ足ルモノアルナシ、唯々風塵外ニアツテコレヲ研究スル殆ト十年ニ垂トスト云フニ過ギス、然ルニ今ヤ學友ノ懇切ナル勸告ニヨリ昆蟲學講義第一昆蟲學小史ヲ公ニスルコト、ナレリ、心中實ニ忸怩トシテ悔恨ノ情ナキニアラズ、蓋、一貧書生ノ自ラ勉メタリト雖モ未ダ以テ古今東西ノ文献ヲ涉獵スル能ハズ、從テ著シ來レバ意ニ滿タザル處多クナルヲ以テナリ、サレバ余ハ多士濟々タル日本昆蟲學界ニ向ツテカ、ル愚著ヲ提供スルヲ以テ本邦昆蟲學ノ振興ニカアルベシトハ云ハズ、唯心中些カ期スル所アルノミ、學兄讀者諸君コノ心ヲ諒察アランコトヲ、憂フル所ハ全講義ヲ終ラザルニほつつけと、まねーノ盡キザルナキカニアリ吁々、序ナガラ讀者ニ謝スルハ此回ノ印刷ノ不整頓ニアリ、續テ公ニスル昆蟲系統論、形態學以下ニアリテハ更ニ注意スル處アラン、行文ノ澁難ヲ答メズ完結ノ日マデ判讀アランコトヲ乞フ

明治四十二年九月四日

著 者 再 識

明治四十二年九月十四日印刷
明治四十二年九月十八日發行

昆蟲學小史

定價金貳拾錢

著作兼發行者 深井武司

埼玉縣北足立郡鴻巣町
大字鴻巣三百七十四番地

印刷人 山本長次郎

埼玉縣北足立郡浦和町
四百三十九番地

印刷所 長島活版所

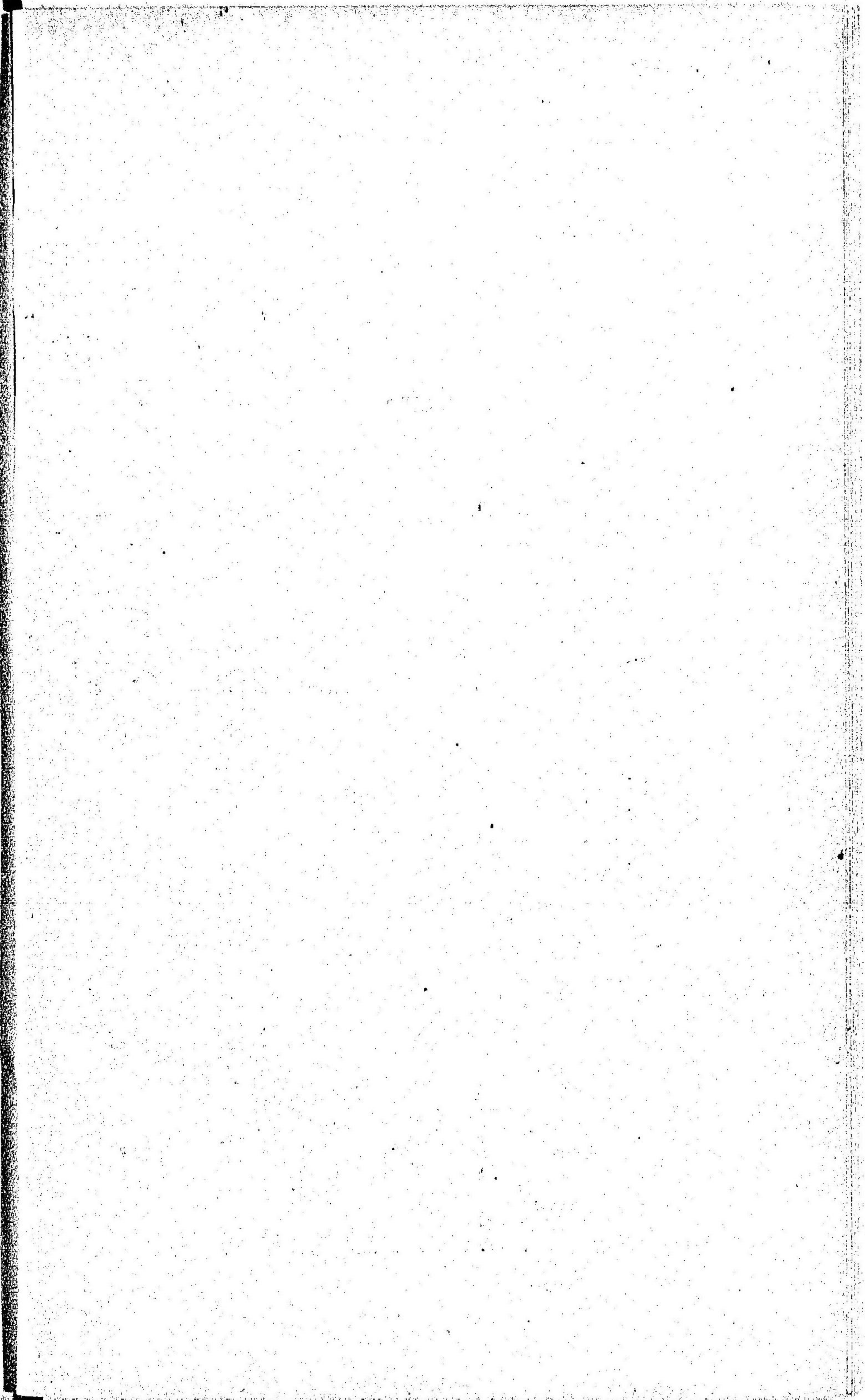
埼玉縣北足立郡浦和町
四百三十九番地

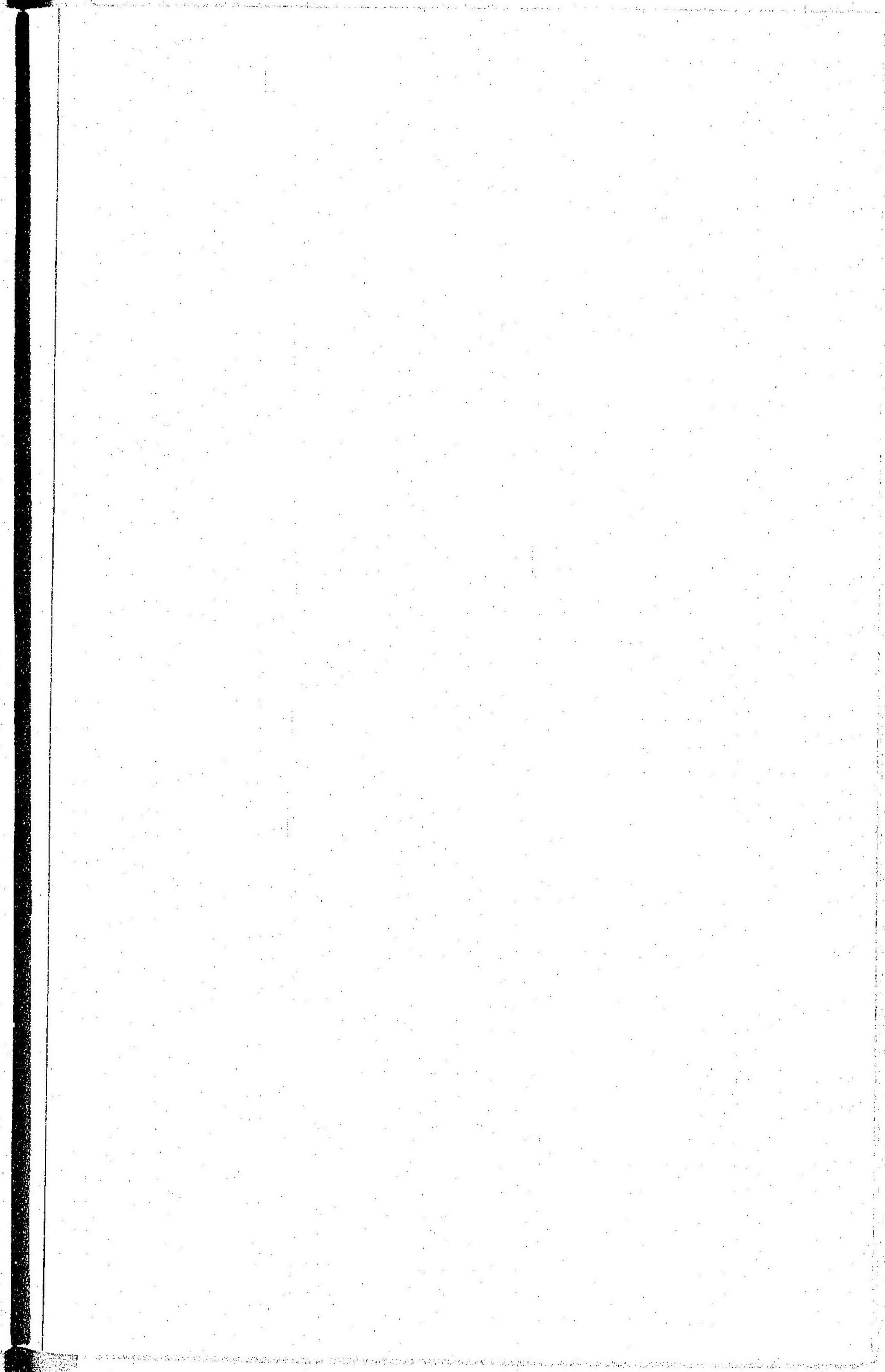


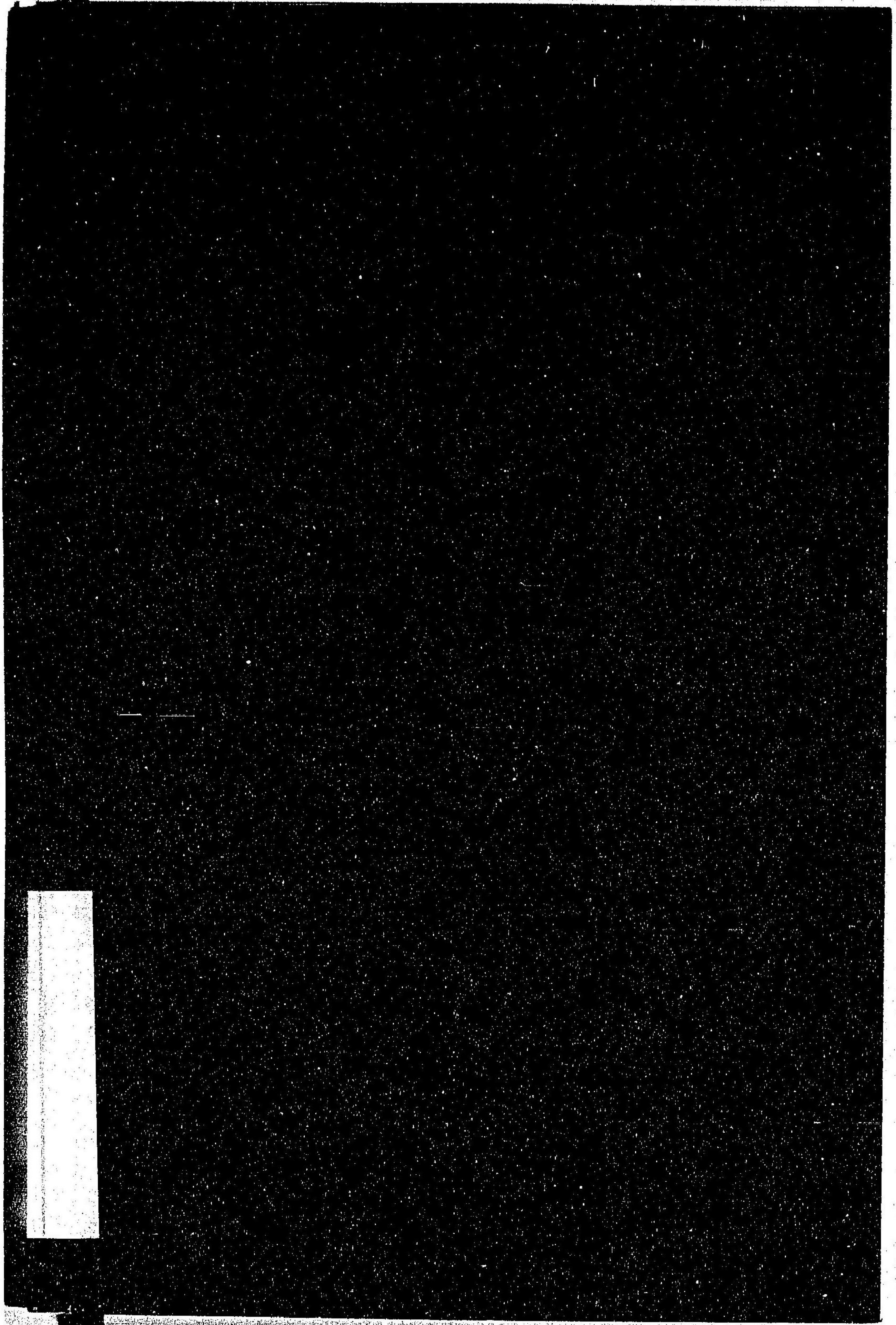
發賣所

東京市神田區表神保町

東京堂







Vertical text on the left edge of the black redaction area, possibly a page number or document identifier.

昆虫学讲义 1

昆虫学小史

国立国会図書館

315

28

(M)

057464-000-9

315-28

昆虫学讲义 第1

深井 武司/著

M42

CAR-0037



